

B-48 寝衣用浴衣の縫製についての一考察

四天王寺学園女子短大 大川原千鶴
○村本 セツ

1. 近年街着としての浴衣の進出は、めざましいものがあるが、一方では従来どおり中年以上の婦人の湯上がり用の家庭着、もしくは寝衣としての活用が大きい。

街着として浴衣を用いる場合には、その仕立てに相当の時間を費しても、美しく仕立てることが望ましいのであるが、後者の場合には美しく仕立てることのみが必須条件ではない。なるべく短時間に仕立てたいという要求も、その一つで、そのため誰しも考えることは浴衣のミシン仕立てである。ミシン仕立ての欠点として、大きな針目で縫えば、ほころびやすく、小さな針目で縫えば、ほどくのくに長時間を要する。そこで寝衣としての浴衣を、仕立てに要する時間、ほころび具合、ほどくに要する時間を実験して考察したので報告する。

2. 市販の寝衣用浴衣を3反用意し、大裁女物(衤付)の着丈に仕立てた。標付したものを同一人で、1枚は全部手縫、1枚は全部ミシン縫、1枚はミシン縫のものに縫い始めと縫い終わりに5cmほど手縫を加えた。これに要する時間をそれぞれ測定した。次に被検者3名に上記浴衣を着用させて洗濯機にかけ、ほころび具合を観察した。

3. 肩当、居敷当は手縫の場合、第1回の洗濯で既に

異常が認められたが、他の仕立てでは全然異常を認められず仕立てに要した時間の割合からみて、寝衣用浴衣の縫製はマシン仕立てでよいことが実証できた。